

* 三角点「三鷹村」のやぐらについて

アーカイブ室新聞174号に国立天文台構内にある三角点「三鷹村」上空から撮影された天文台構内の古い写真1があったという記事を書いた。これは、ブラッシャードームと「オバケ」と呼ばれた太陽分光写真儀室とが同一線(①)上にあること、卯西儀ドームと旧本館の西端屋根の中央を結ぶ線(②)が三角点「三鷹村」に向かっており、昭和8年の東京天文台構内図に直線①と②を引くとまさに三角点「三鷹村」で交差する(図1)ことから、この写真1は、三角点「三鷹村」上空から撮影されたものと推論された。

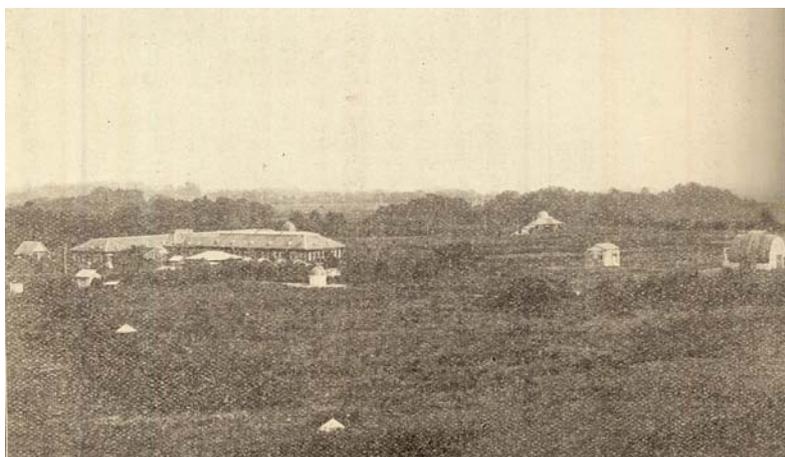


写真1

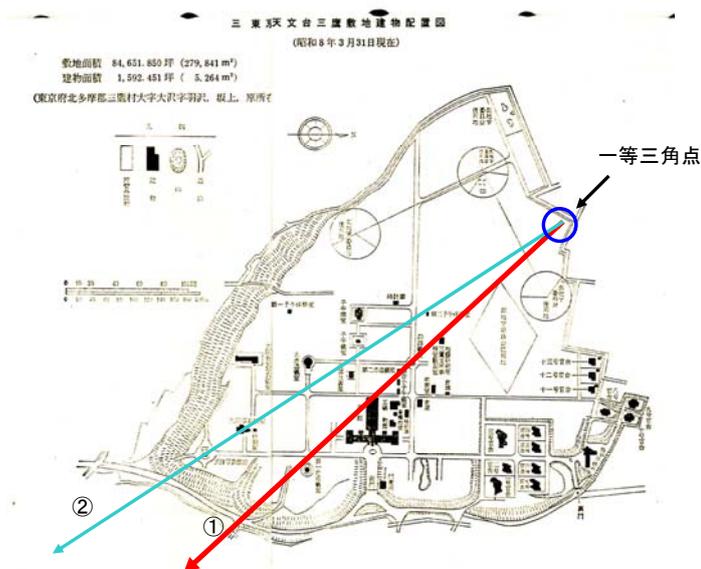


図1

飯島氏は、測量史研究グループである「標石グループ」のメンバーであり、三角点については詳しい方で、この三角点「三鷹村」の記に記された「規標」の「自柱石上面至机板上24.33米」というのは測量機器を乗せる台が、柱石上面（標石上面）の24m33の位置にあるということだそうであるから、写真1はほぼ24.55m上空から撮影されたものといえる。

また飯島氏は、この三角点三鷹村の規標（やぐら）の写真を探して下さるとのことであるが、「三鷹村」の三角点の建設と同時期に建設された三角点に、麻布の旧天文台に1等三角点「東京(大正)」が建設(写真3)され、この三角点の測標の写真は見つけてあるので参考にお送りいただいた。この写真は陸地測量部年報抄録にあり、「東京(大正)」の測標の机板高は25m42である。

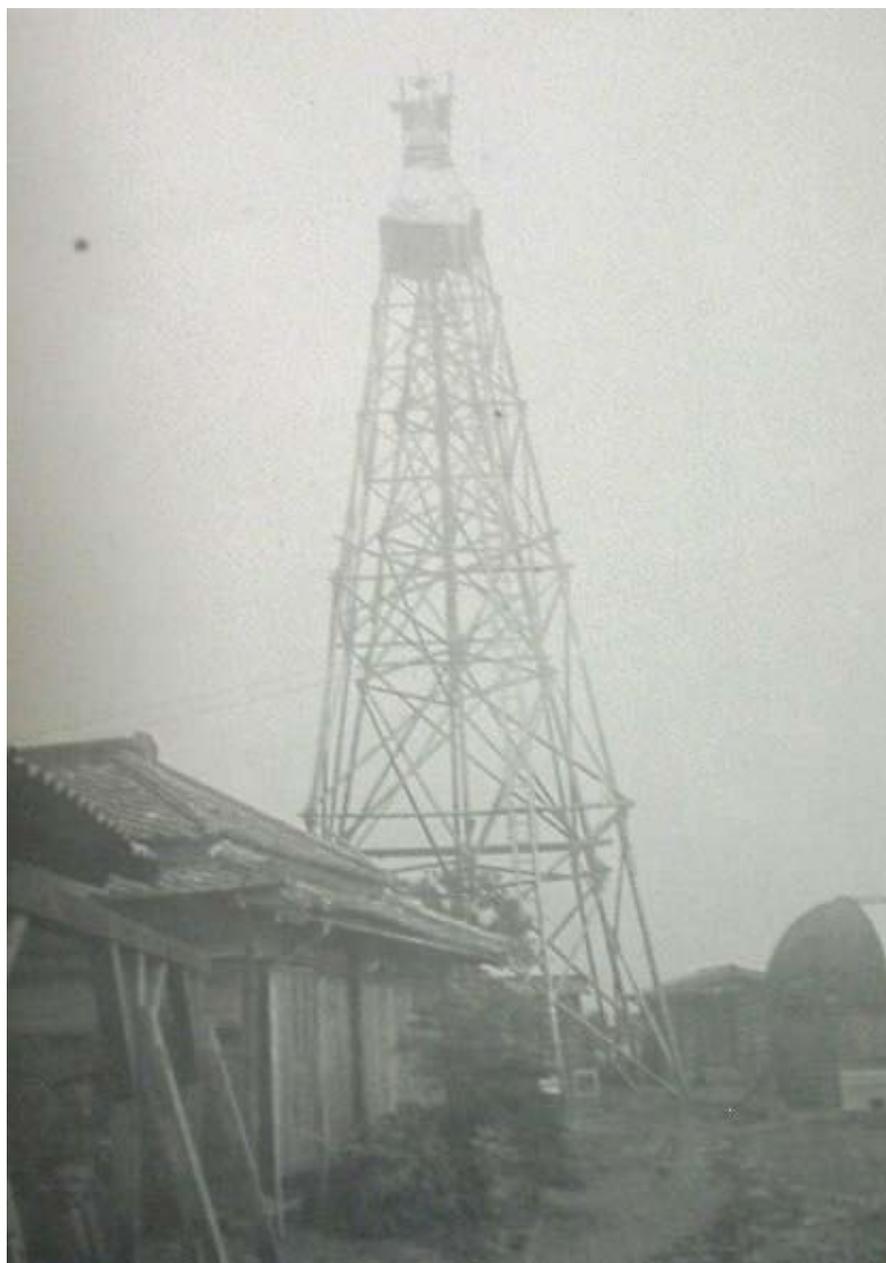


写真3 麻布の東京天文台構内の三角点のやぐら

なんと、写真3には麻布時代の東京天文台のドームが写っている。

また、飯島氏は、アーカイブ室新聞182号に載せた写真3に三角点「三鷹村」の測標（やぐら）が写っていると指摘された。筆者もアーカイブ室新聞182号の写真3の「オバケ」と呼ばれた太陽分光写真儀室の上に移っているやぐらのように見えるものが三角点「三鷹村」に立てられた測標(やぐら)だと思っていた。写真4の矢印を入れたものが「三鷹村」の測標（やぐら）である。

三角点「三鷹村」の測標(やぐら)

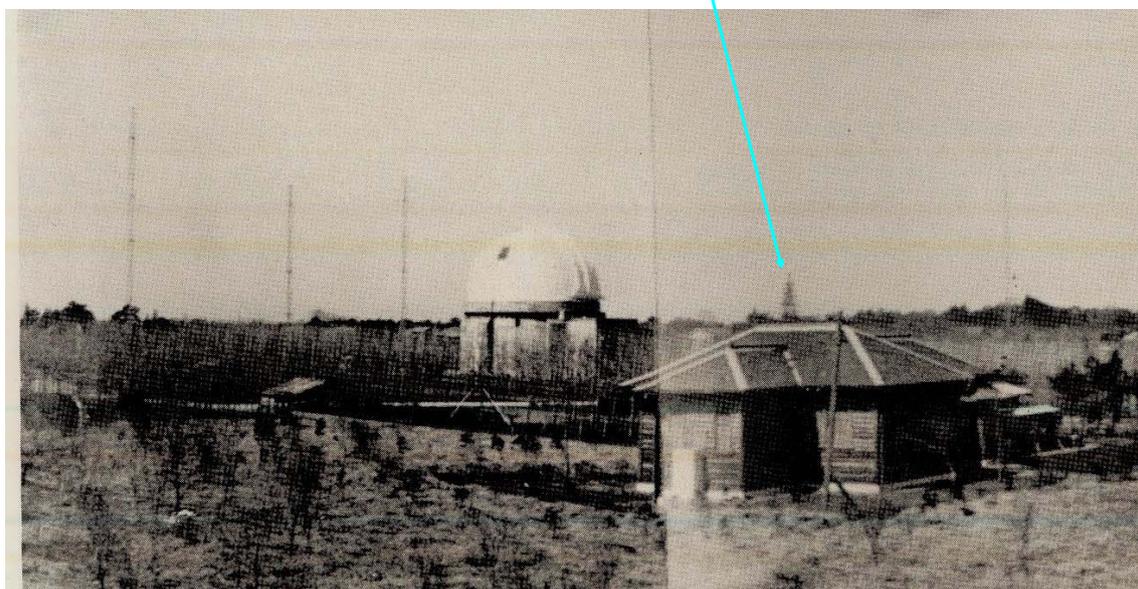


写真4 ブラッシャードームから見えていた三角点「三鷹村」の測標(やぐら)

今回の、飯島氏からの情報でいくつかのことが明らかになった。大変ありがたく感謝する次第である。